NO.

DATE

哲学（総論・各論）　2012年9月2日

生井利幸

東洋・西洋における“矛盾”という概念から考察する「人間の理性」

1　古代中国（楚の国）における「矛盾」

矛（ほこ）と盾（たて）

どんな盾でも破ることができる矛

どんな矛をも防ぐことができる盾

2　古代ギリシア、エレア学派のゼノン(Zēnōn, 490?-430? B.C.)における「矛盾」

「論理」と「実際」は異なることがある

アキレスと亀の競争

3「矛盾」の源泉とは何か

「矛盾」と「矛盾」が重なり合ったとき、どのように考えるべきか。

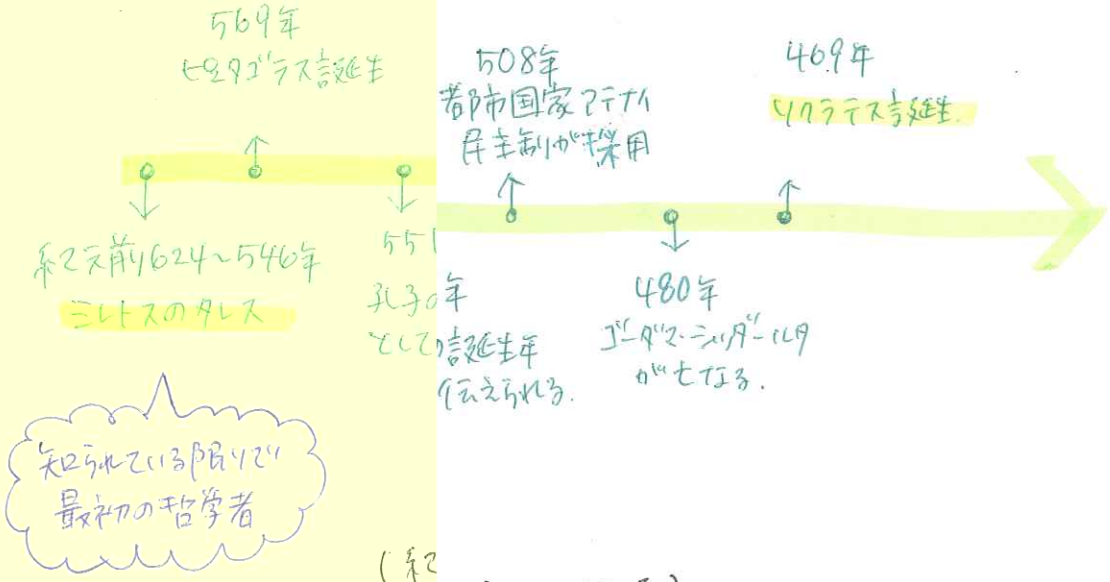
4　二つの概念としての「理性的存在者」

1）「理性的存在者」としての人間

2）「“感性的”理性的存在者」としての人間

第5回 教養講義 哲学　2012.9.2.　①

ソクラテス以前の哲学をふりかえる.



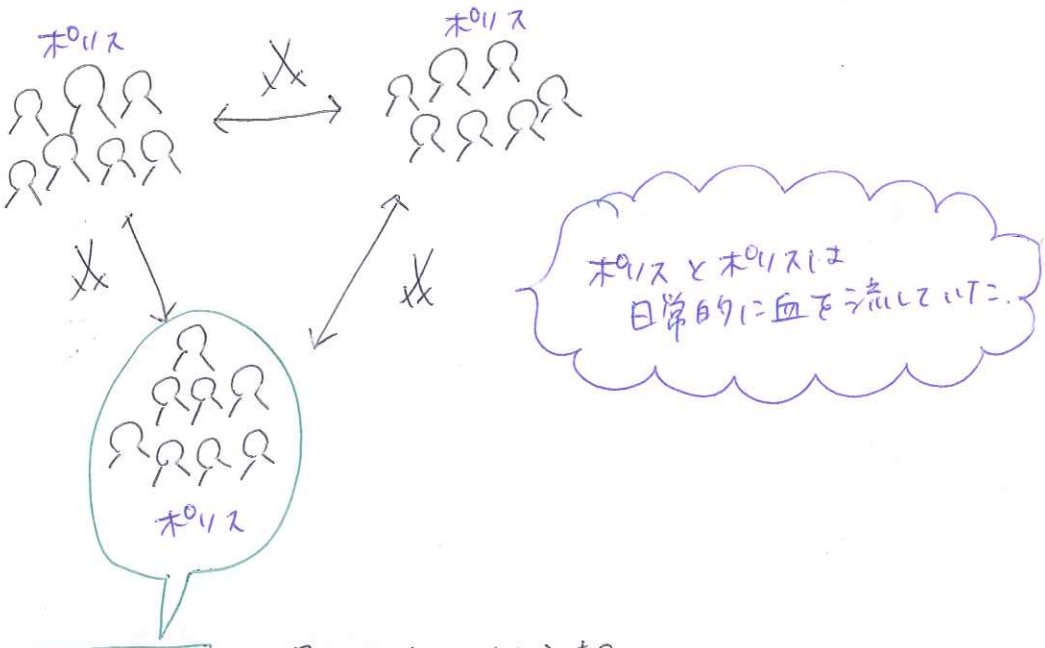
(紀元前6世紀頃)

16世紀、地中海最大の
都市だったミレトス

②

紀元前7世紀頃

人々はポリスごとに分かれて生活するようになった。
都市国家



しかし ポリスの中では暴力はあまりなかった。

ハルモニアを持っていた。
(調和)

調和の実現と構築が
都市国家として維持する
ためには必要。

この源泉が
アクロポリスである。

特に知的水準が高く 正義の追求を重じていた。

↓

スコレーが必要である。
(scholé)

スコレーとは、
- 単なる余暇ではなく、労働を免れて精神活動や自己充実にあてることのできる積極的な意味を持った時間
- 個人が自由に、主体的に使うことができる時間

労働を奴隷が行うことでスコレーを持つことができた。
＝社会的地位の証でもあった。

↓

中世

スコラ

スコレーを持ち自由に思索する。

→ 実は、スコレーを自分なりに謳歌した人たちが哲学の源泉かもしれない。

↓

イオニアのミレトスを中心とした
自然科学へつながる。

「アルケー(arche)とは何ぞや」から探求が始まる。
自然の根源

↓

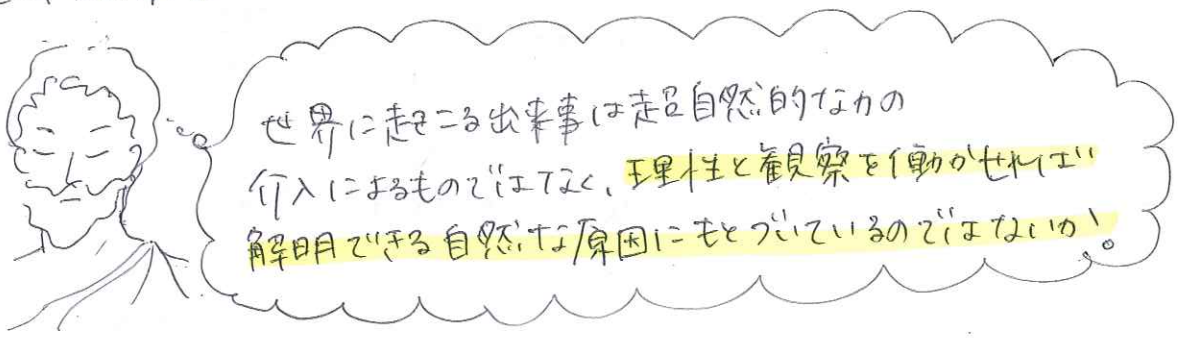
現在

スクール

この"自然哲学の創始者"と呼ばれているのが
ミレトスのタレスである。
(Thales, 624?-546? B.C.)

④

ミレトスのタレス



アルケーとは何ぞや

宇宙の基礎となる物質は何か

↓

それはいにちがいない

- 万物がそれをもとにかたちづくられるなにか
- 生命に不可欠ななにか
- 動きうるもの
- 変化することもありうるなにか

↓

万物は水からできている。

＊ 事物や出来事の原因を気まぐれな神々の移り気のせいにしようとせず、基本的な問いに対して自然に即した合理的な解答を与えようと腐心した。

―哲学大図鑑 P22, 23 より―

いつの時代においても、〈感じること / 考えること〉は変わらない。
└ 哲学はこちらに重きをおく。

"人間が考える"とは、どういうことなのか

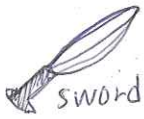
⑥

東洋・西洋における"矛盾"という概念から考察する「人間の理性」

1. 古代中国（楚の国）における「矛盾」

矛（ほこ）

どんな盾でも破ることができる矛



盾（たて）

どんな矛をも防ぐことができる盾.

どちらを肯定しても辻褄が合わない.

矛盾

※「矛盾」は韓非が『韓非子』の中で儒家批判のためのたとえ話の中で、「矛盾」という言葉を使った。

韓非（かんぴ）（280?-233? B.C）

中国戦国時代の思想家.

法家の代表的人物

儒家の述べる徳治のような信賞の基準が

為政者の恣意であるような統治ではなく、

厳格な法という定まった基準によって国家を治めるべし！

=

法治主義

2. 古代ギリシア、エレア学派のゼノン(Zēnōn, 490?-430?B.C)における「矛盾」

◎「論理」と「実際」は異なることがある。

まず、言葉の意味を考えてみよう!

(広)…広辞苑 第五版

「論理」…何らかの概念が固定化されて一つの考えとなる考えが具現化されたもの。

logic

⇓

現実のものではない

(広) ① 思考の形式、法則、また法則的つながり

② 実際に行われている推理の仕方、論証のすじみち

③ 比ゆ的に事物間の法則的つながり

「実際」…現実のもの。

something real

reality

(広) ① 想像や理論ではなく、実地の場合、現実の有様、事実

② (副詞的に) まったく、(まれとうに

③ [仏] 真如、法性のこと。存在するものの真実究極の根拠。

論理 … 現実のものではない

↕ 必ずしも論理と実際は一致しない

実際 … 現実のもの

⇓

ex) アキレスと亀.

論理と理論も違う!

「理論」… 広 ① 個々の事実や認識を統一的に説明することのできる普遍性をもつ体系的知識 ⑦

theory

㋑ 実践を無視した純粋な知識
この場合、一方では高尚な知識の意、
他方では無益だという意味のこともある.

㋺ ある問題についての特定の学者の見解、学説.

② 論争

論理は、体系的な思考の法則やみちすじ
理論は、体系的な知識や見解、
ということかな.

theory ⟺ Practice

(理論、思想に対して)実行、実践、実地、実際

アキレスと亀の競争

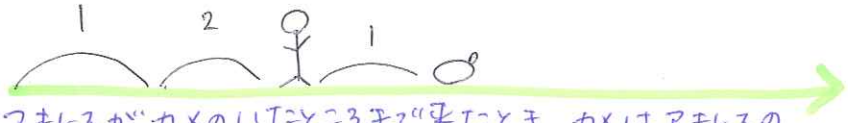
エレア学派
ゼノン

- アキレスはカメの2倍の速さで進む
- アキレスが2進むとカメは1進む

カメはハンデをもらって同時にスタート！

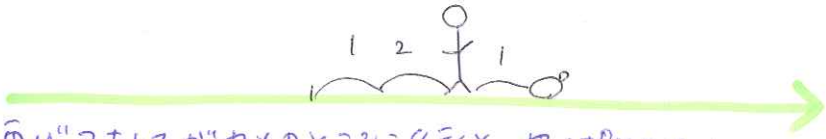
①

②



アキレスがカメのいたところまで来たとき、カメはアキレスの進んだキョリの半分前にいる。

③



再びアキレスがカメのところに行くと、やっぱりカメはアキレスの進んだキョリの半分だけ前にいる。

これが永遠にくり返されるので
アキレスはいつまでもカメに追い越せない。

論理 …… 追いつけない

実際 …… 追いつける。

ここに矛盾がある！

↓ このことから

どのような優れた理論を樹立しても、

そこには完全無欠な絶対性はない!

Connotation

言葉の含みがある。

(1) コノテーション
言語記号の潜在的
多層的意味をいう。共示。

⇕

(2) デノテーション
言語記号の一般的
意味をいう。外示

カノテーション
(Connotation
(名) 1(語、事の)言外の意味、含蓄
2(論理学)内包

1. 内部にもっていること
2. 論理学で、概念が適用される事物に共通な性質の集合。

外延
denotation.

概念が適用される事物の集合。

(学者という概念の内包は「学問の研究者」など)

---(エレア学派、ゼノンについて)---

エレア学派とは?

無からは何も生まれない。
有るものは有る。

エレア学派の代表者 (1) パルメニデス(515?-445? B.C)
ゼノンの師。

- 感覚より理性を信じる合理主義の祖であると考えられている。

感覚で捉える世界は生成変化を続けるが、
そもそも「変化」とは、
在るもの → 無いもの
無いもの → 在るもの

理性で考えれば
「無」から「有」が生じたり
「有」から「無」が生じるのは
矛盾である!

感覚よりも理性に信を置いて真にあるものは不変だと考えた。

もっと詳しく.

ミレトスの思想家たち.

「アルケーとは何ぞや」

水　無限定なもの（アペイロン）　空気（息）

何らかの既に存在しているものから生まれている.
（無からは何も生まれない）

これらの根源が「変化」して世界が生まれる.

この変化とは、何か？
（生成変化の問題）

この問題に取り組んだのがエレア（南イタリア、ギリシア人植民地）に住んでいた哲学者たち.

代表者：パルメニデス（515？-445？B.C.）

変化とは、
在るもの → 無いもの
無いもの → 在るもの.

理性で考えれば、
「無」から「有」が生じたり
「有」から「無」が生じるのは、
矛盾である！

存在しているとされるなにかは、無からは到達しえないし、
つねに何らかの形態においてであったにちがいない。

→ 永続的な形式は変化することがありえない。

→ つねに存在しているものが、なにか別のものに変化してしまいながら依然として永続的なものであるということは、ありえない。

パルメニデスの主張.

現実のいっさいは永遠にして不変で、不可分の統一性をそなえているにちがいない!!

↓

万物は一である.

感覚は全て疑い

理性によって、論理的に考えるべきである.

- あるものは永遠にあり、ないものは永遠にない
- 無からは何も生まれない
- AはAであり、A以外のものにはならない

↓

弟子

ゼノン(Zenōn, 490? - 430? B.C)

- アリストテレスによれば、質疑応答により知識を探求する方法は、弁証法ゼノンによって初めて発明された。
- ゼノンは40以上のパラドックスを生みだしたと推定されているが、1ダースのパラドックスしか残されていない。

運動のパラドックスとして知られるもののひとつ「アキレスと亀」

ゼノンがめざしたのは、師であるパルメニデスの主張を擁護することであった。

運動と変化は現実のことか?(反駁しようとしている立場を出発点として) → 予想している帰結を導きだす → 運動と変化という概念そのものの否定(万物は一である)

— 哲学大図鑑監 P331 より —

アキレスと亀の競争

論理 … 追いつけない
実際 … 追いつける。

→ 矛盾を示している。

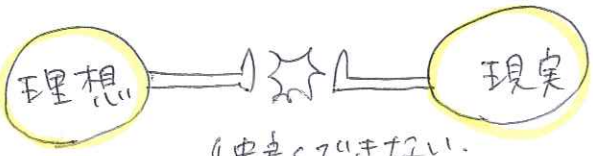
→ そもそもの前提がおかしいのでは？

論理 と 実際 は異なることがある。

完全無欠な絶対性はない！
（ノートP10）

3、「矛盾」の源泉とは何か

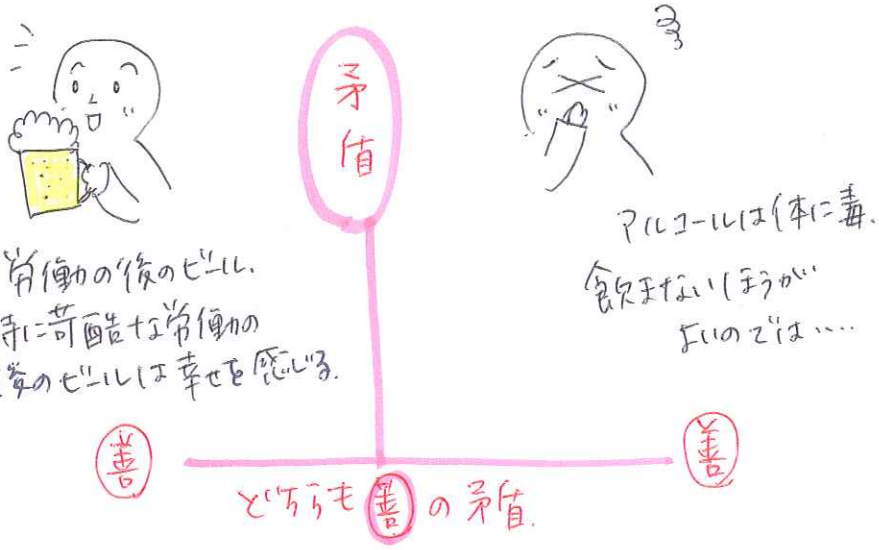
「矛盾」と「矛盾」が重なり合ったとき、どのように考えるべきか



仲良くできない。

どうしたらよいのか

ex) ビールの場合。



「矛盾」が重なり合ったとき、

極端な考え同士 ⟶ 破滅する。

矛盾を融合させていく。
- ほどほどに
- 柔軟に。

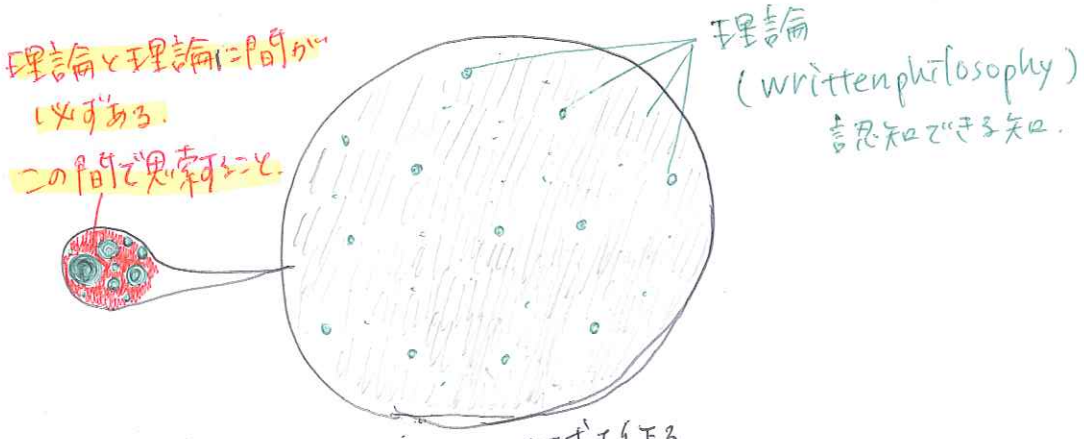
ゼノンの考えから読みとれる。

論理に、完全無欠な絶対性はない！

哲学をする とは？

何年に誰が何をした、言ったとかを暗記することではないよ！

個々の理論と理論の狭間で思索すること。



頭の中に地球を作る。

平面で流れていくものではなく立体的に！

理論と理論の狭間にあるもの＝unwritten philosophy.

(人間が全く認識していない理論)

4. 二つの概念としての「理性的存在者」

1)「理性的存在者」としての人間

理性とは？

西洋人は人間のことを
しばしばこのように言う。

そもそも、「理性」とは何か？
「感性」とは何か？

本当の意味は分からない。

言葉の面前において
謙虚であること。
自分自身、言葉をどう扱っているのかを
考える。
見識を養う。

本当は知らないで使うことは
言葉の暴力でもある！

今は、
日常的に使う意味の範囲内で
使う

『人生に哲学をひとつまみ』より

P17.「人間は、犬や猫とは違う」

・動物的本能はあるが、
しかし知性もある。

本能のまま自分の行動を
決めているわけではない。

「考える」能力が備わっている。

考える 行為の実践こそが
人間が人間である唯一の証。

・動物的本能の
おもむくままに行動
モノを考えない

— 広辞苑 第五版より —

「理性」と「知性」の違い

「理性」 reason …… ① 概念的思考の能力。
実践的には感性的欲求に左右されず思慮的に行動する能力。
古来、人間と動物とを区別するものとされた。

能力

② 真偽、善悪を識別する能力。

③ 超自然的啓示に対し人間の自然的な認識能力。

④ プラトン、アリストテレスらにおいては、絶対者を認識する能力。

⑤ 特にカントの用法として、アープリオリな原理の能力の総称。（経験的認識に先立つ先天的、自明的根拠）
カントは理性が認識に関わる場合を理論理性、行為の原理となる場合を実践理性とよんだ。

⑥ ヘーゲルの用法で、悟性と区別された弁証法的思考の能力。

⑦ 宇宙的原理、世界理性、絶対理性などのようにいわれる。

⑧ ロゴスとしての言語能力

「知性」 …… ① 頭脳の知的な働き、知覚をもととしてそれを認識までにまとめあげる精神的機能。

機能

② (心) 広義には知的な働きの総称。
狭義には感覚により得られた素材を整理・統一して認識に至る精神機能。

---

1) 「理性的存在者」としての人間
||
モノを考える存在者としてとらえる。

2)「感性的"理性的存在者」としての人間

→感性的な能力を備えた理性的存在者としての人間

本当は、理性と感性を対比させるものではない

考える力

その人なりに感じる力

↑

広義の解釈において、
理性と感性は
究極的には同じものである。

感性的"理性的存在者としての、

人間の思考。

① 感じる。(考える前に、意識・無意識的に)

↓

② 考えはじめる。

↓

③ 考えた末に、
自分なりの答えをだす。

+

深い思索のあとに感じる。

} 現実社会では、ここで勝負している。

でも、

} ここに本心がある。

本当の心。

感じて → 考えて(深く) → 直後 感じる

ex) アメリカ合衆国最高裁判所(Supreme Court of the United States)の判事の判決について.

正義 といわれている.

事例など → 感じる.

↓

深い思索

↓

判断 → 深い思索した結果に法としての正義のrationalityがある!(合理性)

直後に何か感じる.

個人的見解だから

本音はここにある!

しかし感じたことは判決文には書かない.

↓

判決文

法律家としてのrationalityにより導きだされたもの

||

rational judgement.

この境地に至るのに、20年以上の経験が必要.

感じて → 深く考え → 直後 感じる

artificial reason
(人為的理性)

=

自分自身が困難、苦難をのりこえて作られた理性

どの分野の職業においても、構築しなければならない

"感性的"理性的存在者としての人間

感じて考えた上でまたその人なりに感じる存在者である。

だから広義の意味で理性と感性は同じものと解釈できる。

inherent reason.
(天賦的理性)

― 最後に ―

「モノが見える！」と断言する人

本当は何も見えていない。＝分かっていない

だから怖くない。

断言できる。

「目の前がまっ暗…」な人。

毎日、大変な思いをして自分の道を模索し続けている。

＝

土地に足をつけて道を進んでいる。

目の前がまっ暗で何も見えないということは、祝福されている！

学問の深遠さは、やればやるほどわかってくる。

やればやるほど難しさを知る。

勇気を持ってすすもう!!

だから「何もわかっていない」ことがわかる。